

## 4. 消費機器における事故防止対策

### ①消費者への注意喚起のためのリーフレット

○経済産業省は、消費者起因の事故防止のための以下のリーフレットを作成し、ホームページに掲載。

- 閉栓カバーによる誤開放防止
- 消費機器管理による事故防止

ガスをご利用の皆さまへ

誤開放事故を防止するちいさな安全機器

# 閉栓カバー

って、  
ご存じですか。



近年、二口ガス栓でガス機器に接続されていない方の元栓を開けてしまう「誤開放」事故が増えています。誤開放はガス漏れや火災につながるおそれがあり、大変危険です。

誤開放とは？  
誤開放とは、ガス機器につながっていない未使用のガスの元栓のつまみを間違えて開けてしまうことです。

未使用のガスの元栓を間違えて開けてしまわないようにガードする **閉栓カバー**

面倒な工事は不要です！



「閉栓カバー」について詳しくは、ガス販売店へおたずねください。

経済産業省

[http://www.meti.go.jp/policy/safety\\_security/industrial\\_safety/sangyo/lpgas/files/gokaihou.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/lpgas/files/gokaihou.pdf)

閉栓カバー

消費機器管理

[http://www.meti.go.jp/policy/safety\\_security/industrial\\_safety/sangyo/lpgas/files/kikikanri.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/lpgas/files/kikikanri.pdf)

LPガスをご利用の皆さまへ

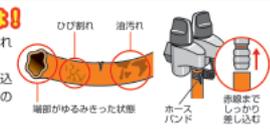
# このようなガス機器 お使いではありませんか！

近年、火がつきにくいガス機器や古いゴムホースなどを原因としたガス漏れやCO（一酸化炭素）中毒事故が目立っています。このようなガス機器を使い続けると大変危険です。すぐにLPガス販売店に連絡しましょう。

**点火しにくいガス機器は！**  
点火操作を何度も繰り返すと、機器内に溜まったガスに引火し危険です。  
\*乾電池が切れていると点火できません。



**古くなったゴムホース(ゴム管)は！**  
焼けこげやひび割れのあるゴムホースは、ガス漏れの危険があるためすぐ交換しましょう。また、ゴムホースはガスの元栓の赤い輪まで差し込まれているか、ホースバンドで固定されているかの確認もしましょう。



**使っていないガスの元栓は！**  
ガス機器に接続されていないガスの元栓のつまみを間違えて開けてしまう「誤開放」事故が増えています。つまみは「閉」になっているか、しっかり確認しましょう。

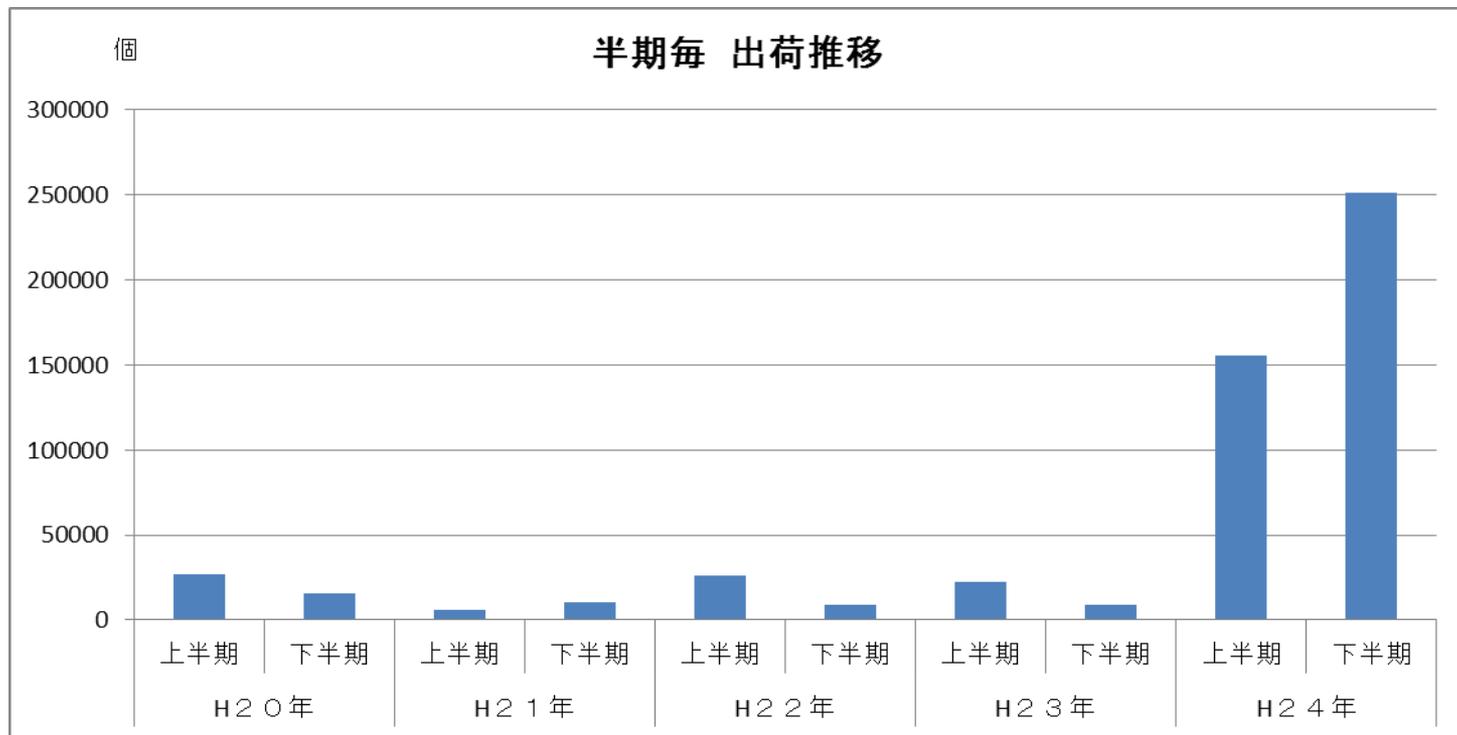


お使いのガス機器は大丈夫ですか。  
少しでも不安を感じましたら、LPガス販売店に連絡し、点検を依頼しましょう。

経済産業省

## 4. 消費機器における事故防止対策 ②閉栓カバーの出荷数

○平成24年の閉栓カバーの出荷数は、平成23年に比べ約13倍に増加。



暦年	H20年		H21年		H22年		H23年		H24年		累計
上半期(1-6月) 下半期(7-12月)	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	
出荷数	26,847	15,333	5,585	10,675	26,052	9,120	22,642	8,752	155,144	250,858	531,008

出典：一般社団法人日本エルピーガス供給機器工業会

## 4. 消費機器における事故防止対策

### ③パロマ製半密閉式ガス瞬間湯沸器の発見状況について

○直近1年間(平成24年2月から平成25年1月末)において、LPガス販売事業者と都市ガス事業者からの連絡により、消費生活用製品安全法の回収命令の対象機器が24件発見された。このうち1件は開栓使用中の状況であった。

○使用していない空き部屋を再度使用する為に点検等を行った際、5件発見された。使用していない部屋等にも対象機器が存在する可能性を踏まえ、点検・周知を行うことが必要。

#### LPガス販売事業者、都市ガス事業者の再点検により対象製品を確認したもの

	平成24年												平成25年	合計
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
総数	494	497	501	502	507	508	509	509	509	510	512	516	-	
増加数(ガス事業者等の再点検により確認)	2	3	4	1	5	1	1	0	0	1	2	4	24	
うちLP	2	1	2	1	1	1	1	0	0	0	1	0	10	
空き部屋で確認	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	5	
開栓使用中	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	

## 4. 消費機器における事故防止対策

### ③パロマ製半密閉式ガス瞬間湯沸器の発見状況について

株式会社パロマ製ガス瞬間湯沸器リコール製品に係る報告について

平成24年6月15日  
 経済産業省  
 原子力安全・保安院  
 液化石油ガス保安課

○経済産業省は、一般社団法人全国LPガス協会を通じて、LPガス販売事業者へパロマ製ガス瞬間湯沸器リコール製品に係る報告と継続的な協力依頼について、改めて平成24年6月に協力要請文書を発出した。

平素より、LPガス保安行政に御理解、御協力をいただき、ありがとうございます。  
 また、株式会社パロマ製ガス瞬間湯沸器リコール製品<sup>1</sup>に係る報告に関して御協力いただき、ありがとうございます。

昨年度もLPガス販売事業者等の皆様からの情報により、対象リコール製品を発見することができました。

つきましては、以下のとおり、対象リコール製品の直近1年間（平成23年4月～平成24年3月）の発見状況を御報告させていただくとともに継続的な御協力をお願いします。

#### 1. 直近1年間の発見状況

(1) LPガス販売事業者等、都市ガス事業者等の御協力により回収された対象リコール製品は平成23年度は21台、うちLPガス機器は13台、そのうち開栓使用中であったLPガス機器は2台でした。平成24年度に入っても、4月、5月に既に3台が回収されており、うちLPガス機器は3台、そのうち開栓使用中であったLPガス機器は2台でした。

表：LPガス販売事業者等、都市ガス事業者等の協力により回収された対象製品

	平成23年												合計	平成24年	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月
総数	478	482	484	486	486	487	488	489	492	492	494	497	-	501	502
増加数	2	4	2	2	0	1	1	1	3	0	2	3	21	4	1
うちLP	2	3	1	2	0	0	0	1	1	0	2	1	13	2	1
うち開栓 使用中	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2	0

開栓状態で使用可能なものとして発見されたものの中には、保育園で断続的に使用されていたものもありました。故障して使用できない状態であるとして帳簿に記載されていないものや帳簿への型式の記載ミス等により見落とされていたものもある一方で、空室・空室等から発見されたものもあり、LPガス販売事業者等の皆様の御協力があったからこそ発見されたものもありました。

<sup>1</sup> PH-81F、PH-82F、PH-101F、PH-102F、PH-131F、PH-132F、PH-161F

## 4. 消費機器における事故防止対策

### ④長期使用製品安全点検制度の普及啓発(経済産業省・LPガス安全委員会)



# LPガスを正しく使って安心な毎日を送ってね。

CO(一酸化炭素)中毒事故を起こさないように日々の生活に気をつけ、安全・安心に暮らしましょう。



おじいちゃん おばあちゃんへ

ガス屋さんから 安全なガスの  
使い方を教わったよ!!

ガス器具を使うときは「換気」してね

使ってないガス栓は「閉めて」ね

あれ?と思ったらガス屋さんに「連絡」してね

また遊びに行くね♡



**換気** ガス器具の使用時は、必ず換気(給気と排気)を! 換気扇を回してときどき窓も開け新鮮な空気に入れ替えましょう。空気(酸素)不足の状態ではガスを燃焼すると、有毒なCOが発生します。「無色・無臭」な為、気付かないうちにCO中毒を起こし、死に至る場合もあります。



**石炭酸** 誤開放防止の為、使っていないガスの元栓のつまみは「閉」にし、閉栓カバーとゴムキャップをつけましょう。ゴムホース(ゴム管)にひび割れなどがあるものは交換しましょう。



**点検** 点火ミスを繰り返すと、器具内にガスが溜まって引火し、事故につながる恐れがあります。点火ミスに気をつけ、炎が青い事を必ず目で確認し異常を感じたらすぐにガス器具メーカーに点検を依頼しましょう。



※乾電池が切れていると点火できません。

#### 特定保守製品



平成21年4月より前に製造された製品は法定点検の対象外ですが、お客様からの依頼があれば法定点検に準じた点検を実施しています。点検費用は有料です。ガス器具メーカーにご相談ください。

#### ガス使用を再開するときの安全確認

地震などの災害後は、必ず安全確認を行ってからガス使用を再開しましょう。■次の場合はガスを使用すると危険です。

##### 確認①

✓ **ガス漏れやガスの臭いがしていないかを確認!**  
ガス漏れやガス臭いときは、ガスを使用せず器具性、ガスの元栓、メーターガス栓および各部バルブをすべて閉めて、「LPガス販売店」が「緊急時の連絡先」に連絡してください。

##### 確認②

✓ **ガス器具に損傷がないかを確認!**  
ガス器具が損傷していた時はガスを使用せず、ガス器具メーカーに修理を依頼してください。

■余震や停電に注意してお使いください。

✓ **ガスメーターがしゃ断された場合は、ガスメーターの表示を確認し、復帰を行ってください。**

「圧力が低下した時」や「大量漏えい」のしゃ断表示の場合は、LPガス販売店の点検を受けてください。

※ガスメーターの復帰方法など、詳しい情報は下記のLPガス安全委員会のホームページでご確認ください。

#### 緊急時はすぐ連絡

ガス漏れ、CO発生など異常を感じたら「緊急時の連絡先」に連絡を!

緊急時は  
夜間・休日も対応

緊急時は  
30分以内に無料対応

※緊急時の連絡先はあらかじめLPガス販売店に確認してください。

#### LPガス安全委員会 / 経済産業省

詳しい情報はLPガス安全委員会のホームページでご確認ください  
<http://www.lpg.or.jp/>

## 長期使用製品安全点検制度の紹介(平成24年10月、2月に週刊誌へ掲載)

#### 「点検制度」をご利用ください!(長期使用製品安全点検制度)

点検が必要な特定保守製品は長い間使用を続けると、部品等の経年劣化により事故を起こす恐れがあります。特定保守製品を安全に使い続けるために、メーカー等から点検時期をお知らせしますので、必ず所有者登録をしてください。

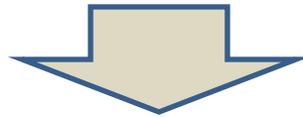
#### 「特定保守製品」を購入したら

- 説明を受けましょう**  
ガス器具購入店から点検制度についての説明を受けます。
- 所有者登録をしましょう**  
所有者をガス器具購入店に送るか、ガス器具メーカーに郵送し、登録しましょう。
- 点検を受けましょう**  
点検時期が来ると、通知が届きます。ガス器具メーカーに点検を依頼しましょう。  
※点検費用がかかります

## 4. 消費機器における事故防止対策

### ⑤経済産業省(本省)から国土交通省への協力依頼

- ガス機器の給気・排気部を閉塞したまま機器を使用した場合、機器の着火・爆発や異常燃焼による機器の破損のほか、酸素不足による酸欠や不完全燃焼による一酸化炭素中毒の発生のおそれがあり、消費者が死に至る事例も発生している。
- 住宅塗装工事におけるガス機器の給気・排気部の閉塞によるガス事故
  - ・平成19年から平成23年の5年間:計56件発生(液化石油ガスと都市ガスの合計)
  - ・特に、平成22年は10件、平成23年は22件と増加の傾向



- こうした状況を踏まえ、平成24年7月30日、国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課あて、塗装工事業者の業界に対し以下の要請を行うよう協力を依頼。
  - ・養生を行う場合は、ガス機器の給気部及び排気部を塞がないこと。
  - ・やむを得ずガス機器の給気・排気部をビニールシート等で塞ぐ場合には、当該ビニールシート等を取り除くまでは絶対にガス機器を使用しないよう、住人への周知を徹底すること。
  - ・工事終了後は、速やかに養生のためのビニールシート等を外すこと。
- ◎同日付けで、全国LPガス協会、日本液化石油ガス協議会、全国LPガス保安共済事業団、日本ガス協会、日本コミュニティーガス協会に対して、ガス事業者を通じた一般消費者への周知を依頼

# 経済産業省

24原企課第61号  
平成24年7月30日

国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課長 榎本 健太郎 殿

経済産業省原子力安全・保安院企画調整課長 片山 啓



経済産業省原子力安全・保安院ガス安全課長

経済産業省原子力安全・保安院液化石油ガス保安課長 福田 敏史

NISA-245d-12-2

NISA-278d-12-1

住宅塗装工事等におけるガス機器の給気・排気部の閉塞による一酸化炭素中毒事故の防止について（協力依頼）

標記の件については、平成20年2月28日、平成21年1月22日及び平成21年1月14日と3回にわたり協力依頼を行っておりますが、住宅塗装工事におけるガス機器の給気・排気部の閉塞による不完全燃焼や異常燃焼に伴う一酸化炭素中毒やガス機器の破損などのガス事故は、平成19年から平成23年の5年間で計56件（うち死亡1件、中毒2件、酸欠1件）発生しております。特に、最近では、平成22年で10件、平成23年では22件と増加の傾向が見られ、平成24年にも、既に2件の事故が発生しております。

ガス機器の給気・排気部を閉塞したまま機器を使用した場合、機器の着火・爆発や異常燃焼による機器の破損のほか、酸素不足による酸欠や不完全燃焼による一酸化炭素中毒の発生のおそれがあり、消費者が死に至る事例も発生しております。

平成23年5月9日には埼玉県某集合住宅において屋外式風呂給湯器の排気トップに、建築基準法において設置が禁止されている防火ダンパーが取り付けられていたことにより、異常燃焼が起き、機器を破損する事故が2件見つかり、また、同年10月7日には岡山県某集合住宅において、外壁塗装工事の際に、塗装工業者が屋外式給湯器を設置していたベランダを全てビニールシートで密閉したことで、外気が入らず酸素不足となり、ベランダに出た消費者2名が酸素欠乏となったと推定される事故が発生しております。

つきましては、塗装工業者等に対し、以下の要請を行っていただきますようお願いいたします。

- ・養生を行う場合は、ガス機器の給気部及び排気部を塞がないこと。
- ・やむを得ずガス機器の給気・排気部をビニールシート等で塞ぐ場合には、当該ビニ-

ールシート等を取り除くまでは絶対にガス機器を使用しないよう、住人への周知を徹底すること。

- ・工事終了後は、速やかに養生のためのビニールシート等を外すこと。

(添付資料)

- ・参考資料1 過去の同様の事故一覧
- ・参考資料2 注意喚起チラシ
- ・参考資料3 平成20年2月28日付け「住宅塗装工事等の際のガス機器の給気・排気部の閉塞に関する注意喚起についての塗装工事業団体への協力依頼について」
- ・参考資料4 平成21年1月22日付け「住宅塗装工事等の際のガス機器の給気・排気部の閉塞に関する注意喚起についての塗装工事業団体への協力依頼について」
- ・参考資料5 平成21年12月14日付け「住宅塗装工事等におけるガス機器の給気部又は排気部の閉塞による一酸化炭素中毒事故の防止について（協力依頼）」

ガス臭いなどの異常を感じたら、  
すぐガス事業者へ連絡を!

危険を感じた時は、すぐ安全な場所に避難してガス事業者  
(一般ガス事業者・検査ガス事業者)へ連絡してください。  
火災厳禁! 換気扇・電灯などのスイッチは、着火源となる  
ので絶対に手をふれないでください!



地震や火災の時も、あわてずに!  
あせらず、ご自分の安全を確保したあと、ガスを閉めてください。

ガスの事故がなくなるよう  
皆様のご理解とご協力をお願いします。



お問い合わせ先

塗装工事業者さまへの  
お願い!

工事の際に、やむをえず給排気筒(煙突)・換気扇・  
給排気口・屋外式給湯器をビニール等で覆う場合、  
お客さまへ**ガス機器を使用しないように**  
お知らせしてください。



作業終了後は「ビニール等の覆い」を  
取り除いてくださるようお願い致します

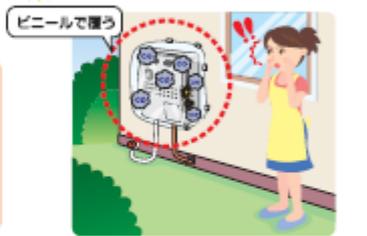
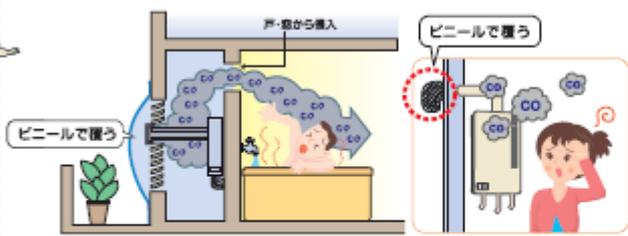
[http://www.meti.go.jp/policy/safety\\_security/industrial\\_safety/sangyo/citygas/aikotobademinashitai/use/pdf/toso\\_2012\\_pamph.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/citygas/aikotobademinashitai/use/pdf/toso_2012_pamph.pdf)

建物外壁塗装工事中的お客さまへ

**ビニール等で覆ったままガス機器を使用すると危険です。**

**危険ケース!** 不完全燃焼による一酸化炭素(CO)中毒の原因になります。  
ガス機器が不完全燃焼を起こし、燃焼ガスが室内に流入して、  
一酸化炭素(CO)中毒に至る恐れがあります。

**危険ケース!** 異常着火の原因となります。  
ガス機器が異常着火を起こし、ガス機器の  
故障や火災に至る場合があります。



**お願い! 工事中はガス機器を使わないでください。**



- 工事中「覆ったままガス機器を使用すると危険」な箇所。
- FF型ボイラーの排気口(煙突)トップ
  - RFボイラーの排気口トップ
  - 換気扇のフェーダーカバー
  - 玄関ドアの換気口やふろがまの換気口
  - 屋外式給湯器

外壁塗装工事の際に、給排気筒(煙突)・換気扇・給排気口・屋外式給湯器などをビニールなどで覆ったままの状態  
でガス機器を使用すると、すぐ濡れてしまったり、新鮮な空気が不足して不完全燃焼により一酸化炭素  
(CO)中毒の原因や、ガス機器が異常着火を起こして故障や火災の原因となり大変危険です。

## 4. 消費機器における事故防止対策

### ⑥建設工事等におけるガス管損傷事故の防止について(平成24年12月18日)

○経済産業省は建設工事等における事故が液化石油ガス及び都市ガスにおいて平成20から23年の4年間で計283件、平成23年は76件発生していることから、厚生労働省、国土交通省に対し、事故防止のため協力要請を実施。

○LPガス販売事業者に対しても、全国LPガス協会や日本液化石油ガス協議会を通じ、協力要請を行った。

#### 経済産業省

24商ガ安第2号  
平成24年12月18日

日本液化石油ガス協議会

経済産業省 商務流通保安グループ ガス安全室

建設工事等におけるガス管損傷事故の防止について(協力依頼)

標記の件について、今般、当省では、ガス事故における他工事事故の防止に向け、別添のとおり厚生労働省労働基準局安全課建設安全対策室長及び国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課長に対し、協力要請を行いましたので、その旨お知らせいたします。

なお、再発事故防止の観点から、貴団体においても傘下の事業者等に対し、以下の事項の周知を行って頂きますようお願いいたします。

- ・他工事業者に対し、工事を施工する前には必ずガス管等についてガス事業者又は液化石油ガス販売事業者等に照会・確認するとともに、ガス管を見つけた場合は、必ずガス事業者又は液化石油ガス販売事業者等に連絡すること等について、周知を行うこと。
- ・必要に応じて他工事の際に立ち会うこと。

## 4. 消費機器における事故防止対策

### ⑦ バランス型ふろがまについての注意喚起のためのリーフレット

○経済産業省は、バランス型ふろがまの使用者に向けて安心なガス機器への取り替え、使用上の注意についてのリーフレットを平成25年2月に作成、周知。

○平成25年2月21日に独立行政法人製品評価技術基盤機構で行われた「NITE・製品安全センター記者説明会」にて周知。

○平成25年2月21日にLPガス安全委員会にて周知。

[http://www.meti.go.jp/policy/safety\\_security/industrial\\_safety/sangyo/lpgas/detail/lpghoansyuuchi.html](http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/lpgas/detail/lpghoansyuuchi.html)

バランス型ふろがまをお使いの皆さまへ



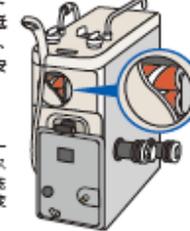
## お宅のふろがまは安全ですか？

乾電池を使用しない、点火レバー方式の古いタイプのバランス型ふろがまは、操作によっては機器内に未燃ガスが溜まり、異常着火することがあり、大変危険です。

異常着火を防ぐために、確実に点火することができる  
安全性が向上したあしんなガス機器へのお取替えをおすすめします。

#### CASE1 乾電池を使用したバランス型ふろがま

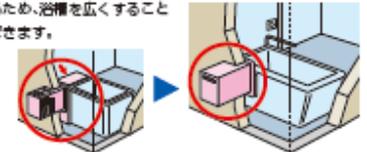
乾電池とマイコン制御によって点火する能力が上がリ、確実に点火することができ、未燃ガスの溜まりを防ぐことができます。電池切れで点火能力が一定以下に低下すると、機器が停止し、ガスが出なくなるなど安全性が向上しています。



※平成23年4月以降にメーカー出荷されたバランス型ふろがまは、すべて乾電池とマイコン制御に変わっています。

#### CASE2 給湯付ふろがま(壁貫通型機器)

バランス型ふろがまの給湯気筒の配分に、給湯気筒と同じ大きさの給湯付ふろがまを設置できます。点火操作などの制御をすべて自動的にを行い、点火する能力が強いので確実に点火することができます。点火できなかった場合でも未燃ガスを排出する機構を有しているため、安全性がさらに向上しています。なお、バランス型ふろがまを設置していた部分に機器がなくなるため、浴槽を広くすることもできます。



点火レバー方式の古いタイプのバランス型ふろがまはご注意ください！

#### ⚠ 未燃ガスによる異常着火に注意

●点火操作時  
口火(たね火)がなかなかつかないときに点火操作を繰り返すと機器内に未燃ガスが溜まり、異常着火により火傷などをして大変危険です。

●シャワー・追いだき時  
「シャワー」や「追いだき」を使用する際に口火(たね火)がつかなくなったり、「シャワー」や「追いだき」を使用中に急にお湯が出なくなった場合には、しばらく時間を置いてから再点火の操作をしてください。すぐに再点火の操作をすると、機器内に残った未燃ガスに引火して、大きな音や振動が発生したり、場合によってはふろがまが変形し近くにいる人に危害を加える、又は、火災に至るなど大変危険です。



#### ⚠ 排水口のつまりに注意

排水口がつまり、ふろがまが水に浸かっていると機器内に水が浸入して、点火しにくくなったり、故障や火災の原因になります。



点火しない時は再操作をやめ、つまみを消火(止)の位置に戻して、ガス販売店等に連絡してください。

## 4. 消費機器における事故防止対策

### ⑧Siセンサーコンロについてのリーフレット

○LPガス安全委員会は、Siセンサーコンロへの取替え促進についてのリーフレットを平成25年2月に作成、周知。

**LPガス**  
人と地球にスマイルを

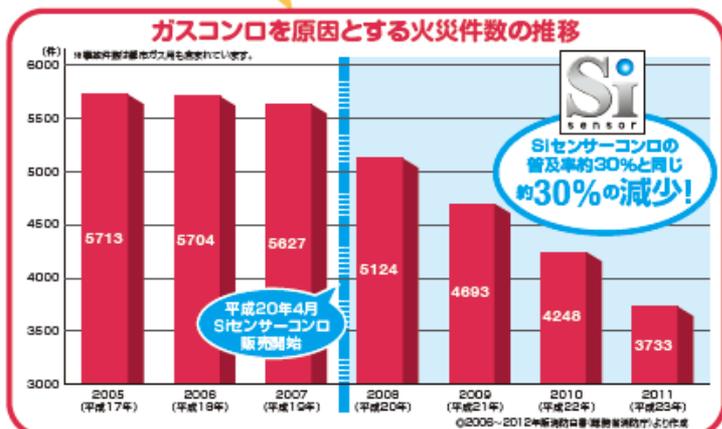
**お宅のガスコンロには火災事故を防ぐための、**

**温度センサーが**

**付いていますか？**



ガスコンロ火災の原因で、もっとも多い「消し忘れ」の防止を目的に平成20年4月以降に出荷されたガスコンロはすべてのバーナーに温度センサーが装備され、ガスコンロ火災は30パーセントほど減少しています。



#### 温度センサーのはたらき

温度センサーは鍋底の温度を検知して、ガスを自動断燃します。

##### 通常使用モードの場合

このモードのときは、火力を強くしても鍋底温度が約250℃以上にならないうちに、一般的に240℃～250℃で火力を自動弱めます。さらに、温度が250℃より上昇した場合には、自動的に消火して油の発火を防ぎます。

##### 高温使用モードの場合

通常使用モードより、より高温の約280℃までの高温調理ができるモードです。一般的に275℃～290℃になると自動で火力を小さくし、これ以上の温度上昇を防ぎます。さらに、温度が250℃より上昇した場合には、コンロの異常燃焼を防ぐため自動消火します。



Siセンサーコンロは「安全性」「便利性」に優れた、進化したコンロです。

### 安全機能



- 消火**
- 調理油過熱防止装置: 温度が250℃より上昇した場合、自動的に消火して油の発火を防ぎます。
  - 消し忘れ消火機能: 点火後、コンロは約1～2時間後、グリルなら約15～20分後に自動で消火し、万一の消し忘れによる事故を防ぎます。
  - 焦げ付き消火機能: 鍋底の焦げはじめを感知し、自動で消火して空焚きを防ぎます。
- 小火**
- 鍋なし検知機能: 鍋を置かずに点火しても着火しません。調理中に鍋を持ち上げると小火になり、袖口などへの引火を防ぎます。
- 止める**
- 立ち消え安全装置: 煮こぼれや風などで万一火が消えてしまっても、自動でガスを止めます。

### 便利機能

- 油温度調節機能: 揚げ物が適温になるまで加熱した後、自動的に適温をキープします。
- 湯わかし機能: お湯が沸いたら自動的に消火します。一定時間経過後は、自動消火するタイプもあります。
- オート調理(オートグリル): グリルを使って食材や料理の状態に合わせて火加減を自動調節し、焼き上げれば自動消火します。
- 自動炊飯機能: 炊飯専用鍋とセットで自動炊飯します。

### Siセンサーコンロへのお取替えのすすめ

ガスコンロにはすべてのバーナーに温度センサーが付いている必要があります。すべてのバーナーに温度センサーを装備した「Siセンサーコンロ」へのお取替えをおすすめします。

調理以外に使用しないでください。コンロは調理を目的に製造されています。他燃料の火起こしなど調理以外の目的に使用したり爆発に使用したりすると、不完全燃焼や器具の過熱による事故や火災の原因となります。メーカーの取扱説明書に従って正しくご使用ください。

ガスコンロの点検・修理の連絡先(記入欄)

品名・器具名	メーカー名	購入年月	点検・修理の連絡先
①			
②			

安全なガス器具へのご相談は…